



れいわ おがわかず 馬 議員

県道30号飯岡一宮線の 路線変更の影響について

問 主要地方道飯岡一宮線(県道30号線)バイパス整備、屋形工区の開通に伴い、蓮沼海浜公園前の道路における整備後の検証について伺います。

答 市長 本整備を実施しました千葉県では、現時点で交通量調査は行っていないのですが、市独自で交通状況の確認を行ったところ、バイパス方向への移行が、ほぼ完了している状況でありました。

問 蓮沼海浜公園前道路の今後の安全対策や夏季シーズンの渋滞対策について伺います。

答 建設環境部長 今後、交通安全対策の看板設置や路面標示などに関係機関と協議したうえで、実施していきたいと考えます。

また、夏季シーズンには、県道への迂回を促す看板を設置するなどして、通過

交通の流入抑止を図っていきます。

問 蓮沼海浜公園前の道路にある南浜海岸入口交差点には、信号機が設置されておらず、交通事故が頻繁に発生しています。今後、交通量の増加が見込まれる中、信号機の設置を含め、対策を伺います。

答 建設環境部長 本路線は開通から40年が経過していること、片側2車線の交互通行で暫定的に供用を開始したことから、現在の基準に合致しない状況があります。交差点改良工事などの規模の大きな事業は、関係機関との協議が必要です。

また、信号機設置については、交通量など設置基準に至らない状況が考えられます。市としては、看板や路面標示など、即効性のある対策を実施していきたいと考えます。



南浜海岸入口交差点

問 飯岡一宮線バイパス、屋形工区の開通に伴い、木戸川へ新たな橋を架ける思いが高まっています。

引き続き、県議会議員の方々と連携し、市議会も一丸となって実現したいと考えますが、市長の見解を伺います。

答 市長 各方面から、早期完成を望む声があることは認識しており、併せて、蓮沼海浜公園をはじめとする観光資源の活用など、戦略的な取組が必要であると感じています。

今後もさらなる事業の進捗を図るべく、積極的な要望を続けていきたいと考えます。

地域防災について

問 地域防災の取組として、自主防災組織による地域防災活動があります。が、本市の自主防災組織の現状について伺います。

答 総務部長 現在、市内265の区や自治会に対して、90の自主防災組織が設立されています。

その内訳は、成東地区が49組織、山武地区が14組織、松尾地区が13組織、蓮沼地区が14組織となっています。

問 1組織当たりの構成人数について伺います。

答 総務部長 自主防災組織は、区や自治会単位での申し込みとなるため、その自治会区の世帯数が、そのまま自主防災組織の構成員数となります。

問 自主防災組織の構成員が、防災士の資格を取得することで、地区防災力の向上が図られると考えますが、市の見解を伺います。

答 総務部長 自主防災組織は、地区防災の要であり、防災に関する知識を有した防災士が構成されることは、組織活動の活性化、地域防災力の向上につながるものと期待されます。

今後、自主防災組織に対して、防災士の資格取得を呼び掛けていきたいと考えます。

問 防災士資格取得状況と、取得のための本市の取組について伺います。

答 総務部長 近年の資格取得状況ですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年は2人、令和2年は3人、令和3年はゼロと低調です。

なお、令和4年は2人を予定していません。

市の取組としては、広報さんむやホームページによる周知のほか、今後は、さらに資格取得者が増加するように、防災士協会や市民活動団体を通じ、直接、周辺住民に対する周知も図っていきたいと考えます。

また、資格取得のための講習や試験等の経費を補助するため、1人あたり2万5000円の補助金を交付しています。